

【めりーちゃん】

懐爺も憶えとるじゃろ、こうこうと明るい月夜になると、小学校の校庭に、【めりーちゃん】という可愛い幽霊が出るって、噂がたったことがあったのう。

「どうかわいいんじゃ」

と、じっさいに見た、村の若いもんにきいたんじゃが、

「可愛いったら、可愛いってことよ」

なさけないくらい、曖昧（あいまい）な返事じゃった。

村の年寄りにもきいたんじゃが、

「見たことがない可愛らしさじゃ」

これも、なさけない。

わしは、抽象的な言い方は嫌いじゃ。

絵はそうでもないがのう、言葉は具体的でのでうてはいかん。

しかし、後でおもったんじゃが、ほんとうのところ、連中は【めりーちゃん】を見ていないんじゃないのか。

校庭に行ったら、白く光る変なものがあるので、腰を抜かしてしまっただんじゃないんか。

それが恥ずかしいもんで、見た見た言うとるんじゃないのかのう。

どうにも信用できなかつたもんだから、わしは、こうこうと明るい月夜に、校庭に行ってみたぞい。

おそらく【めりーちゃん】というくらいだから、米国人との合の子かもしれん。

混血児（こんけつじ）なら、可愛いのは当たり前みたいなもんじゃが、そういうことより、混血児の幽霊というのを、一度見たいもんじゃとおもったでのでう。

見た見た、見たぞーい。

見たことは見たが、【めりーちゃん】は、とても可愛い服を着た、ものすごい老婆じゃった。

「なんじゃ、つまらん」

ついいってしまつたぞい。

まったく、口は禍いのもとじゃ。

【めりーちゃん】は、大きな赤い口をあけて、
「恥をかいた。自尊心が傷つけられた。自愛心が吹き飛んだ。もう知らん」

と叫んだものじゃ。

もう知らんということが、何を知らんのか分からんが、おそらくわしらに禍いを及ぼす気じゃろ。

そう感じたので、ここはひとつ、【めりーちゃん】を退治せにやと、頭突きをかましたらもう、【めりーちゃん】は吹っ飛んで、どこかへいってしもうた。

それで、

「すまん、すまん」

いうたら、空から声がして、

「敬老精神のないやつは、出世しないよ」

「すまん、すまん」

「謝れば済むとおもっているやつは、金欠病になるよ」

そういうこっちゃが、なんかわしの将来を占われたみたいで、厭な気分じゃったのう。